

情報セキュリティ方針

国立大学法人鹿児島大学 学術情報基盤センター（以下「当センター」という）は、本学に対する学術情報基盤サービスを提供している。当センターとしての情報セキュリティの内部統制及び情報セキュリティマネジメントに関する責務は、当センターの重要な使命として位置付けている。

当センターは、当センターが管理する情報資産を守り、当センターが行うサービスの機密性、完全性、可用性を確保するための情報セキュリティ方針を定める。当センターの教職員は ISMS を遵守し、その維持、向上に努めなければならない。

1. 適用範囲

当センターのサービス（教育研究用計算機システム及びネットワークの運用管理、学内情報システムの運用支援）を構成する情報・技術的資産・人的資産・物理的資産を適用範囲とする。当センターの推進組織、関連する利害関係者とセキュリティ上の役割・責任を明確にして、情報セキュリティの確立・向上及び継続的な改善を行う。

2. 目的

情報資産の機密性及び可用性を重視し、提供サービスの完全性及び可用性が損なわれることがないよう情報セキュリティの向上を目指す。

3. 法令遵守と監査・評価

当センターは、不正競争防止法、不正アクセス禁止法、著作権法、知的財産基本法、独立行政法人等個人情報保護法、刑法等の法令等及び ISMS 関連規則・基準並びに各種外部との契約を遵守する。

4. 情報セキュリティ組織と教育

情報セキュリティ基本方針に基づく、セキュリティ要求事項の審議及び対策の決定・評価を行うために、情報セキュリティ委員会を設置する。当センター長は、ISMS の運用管理責任者として ISMS 管理責任者を任命し、ISMS の円滑な推進を図るため、ISMS 事務局を設置する。また内部監査責任者を任命し、定期監査により各種法令、情報セキュリティ方針、各種規程・手順の遵守状況を確認し、運用に反映することで ISMS の継続的改善に努めるものとする。

当センターの教職員に対しては、情報セキュリティの教育、訓練を定期的実施し、セキュリティに対する意識を高めるものとする。

5. リスクアセスメント

業務遂行上必要な業務プロセス及び情報資産の洗い出しを行い、適切に分類、アセスメント、保護・管理する。なお、リスクアセスメントは客観的に体系化され、重要なリスクを有効に見出す仕組みとし、継続して見直しを行うものとする。また、システムの停止及び誤作動は当センター業務において重大な影響を及ぼすため、その完全性、可用性を重視する。情報資産の脅威と脆弱性、事業上の要求事項、法的要求事項への対応も識別する。また、事業継続の安定化と利用者の満足を確実なものとする。

6. 継続的改善

当センターは、上記 1～5 の取り組みを定期的に見直し、その結果に応じて適切な対策を講じることで、ISMS の継続的な改善に努める。

以上

制定日 2017 年 5 月 1 日

国立大学法人鹿児島大学

学術情報基盤センター長

